

奈良語り

gatari
- 公文書館だより -

準備号



図書館は奈良県の
公文書館です



奈良博覧会物品目録(明治8年)

明治時代から現在にいたる公文書
江戸時代の古文書や絵図
図書だけじゃない当館資料の数々…
その魅力を伝える「奈良語り」をはじめます。
準備号では、当館の公文書館としての役割を「紹介します」。

図書館ではなく「図書館情報館」です

各地の図書館に「図書館情報館」とか「図書・情報館」という名称が散見されるようになってきました。当館が開館した頃はまだまだ珍しい名称でした。誰もが図書館は本を借りたり読書したりする施設と考えていたということかもしれません。

当館設立のための基本構想の表紙には、「奈良県総合情報センター（新県立図書館）基本構想」と書かれていました。そこには単なる図書館ではなく、多くの情報が集積され、また利用・発信される奈良県の情報拠点としての機能を持たせようとする意図が示されています。そんな情報センター機能のひとつが公文書館機能です。奈良県に関わる歴史的行政文書をはじめ、近世以来の古文

書や絵図など、後世に伝えるべき資料の保存・利用拠点としての役割を持っています。独立した公文書館ではなく、図書館機能とともに縦横に情報へのアクセスが可能で、新たな情報の結びつきが新たな情報創造を生む、その背景にある ICT 技術ともアクセスできる、そんなユニークな拠点としての意味が込められています。

(乾 聡一郎)



平成 17(2005)年
11 月に公文書館機能を持つ県立図書館として開館しました

当館は奈良県の公文書館です

国や自治体の行政機関で作成される公文書（行政文書）は役割を終えると、一定の保存期間を経て廃棄となりますが、歴史的に重要だと認められた一部の文書は公文書館で保管されます。当館は奈良県の公文書館として、毎年保存期間が満了した県の公文書を選別し、歴史的に重要な文書を移管しています。その数は現在、約1万8千点。これらの文書には個人情報などの公開できない情報も含まれていますので、一点一点審査を経て整理が済んだものから、目録を公開しています。目録を公開しているものは閲覧していただくことができます。

明治・大正時代の公文書は文化財に指定

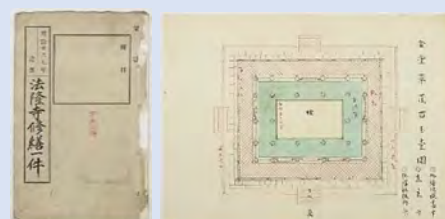
第二次世界大戦の際に戦災などで、多くの都府県が戦前の公文書を失っているなか、奈良県には明治大正時代の公文書が多く残りました。これらの公文書は歴史的価値が高いことから、平成21年に「奈良県行政文書」として、県の文化財に指定されました。県行政のあゆみはもちろん、県民生活の動向などを知るうえで欠かせない貴重な資料群です。

博物館の展示や出版物への掲載

こうした公文書は、たびたび博物館に貸し出され、特別展で展示されています。令和4年度には、大正時代の平城宮跡保存をめぐる文書や明治時代の小学校に関する文書、神社や寺院の明細帳が博物館で展示されました。また出版物には、満州帝国皇帝溥儀の奈良訪問や日露戦争戦利品の下げ渡しに関する公文書などが掲載されています。

奈良県行政文書（明治～大正）

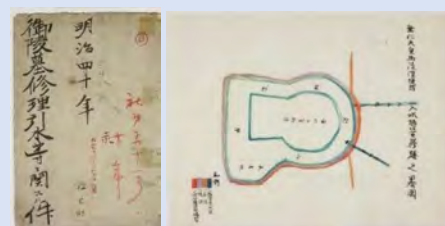
当館が所蔵する明治から大正時代の行政文書6,695冊が平成21年3月に奈良県の文化財に指定されました。



法隆寺修繕一件（明治27年）



平城宮跡関係文書（大正10年）



御陵墓修理引水等二関スル件（明治40年）

令和4年 展示

近代日本の車窓から—150th Anniversary of the Railway—

4/1▶5/29



明治5年、新橋—横浜間に日本初の鉄道が開通してから150年の節目にあたる令和4年は、奈良県下における鉄道敷設のあゆみを公文書や貴重書で紹介しました。

こもんじょ 古文書

古文書や絵図は 4 万点以上

当館では、奈良県に関する江戸時代や明治・大正時代の古文書・絵図などを 4 万点以上所蔵しています。これらは、県庁に残った公文書とは異なり、個人のお宅や地域で伝えられてきたものです。例えば、約 7600 点からなる今西家文書、戦国時代の文書を含む表野家文書、近代の山林・企業経営資料である永田家文書などがあります。

貴重書庫で保管しています

古文書や絵図の多くは紙の酸性劣化を防ぐため、中性紙の封筒に収め、24 時間空調によって温度・湿度が一定に保たれた貴重書庫で保管されています。

古文書の整理にはボランティアが活躍

古文書の目録作成には、ボランティアが活躍しています。ボランティアは当館主催の古文書講座を 4 年以上履修して江戸時代のくずし字の判読に習熟した修了生で構成されています。



上：郡山城及城下町 写
下：諸陵考



貴重書庫

令和 4 年 展 示

ちようちゆうまんろく

庁 中 漫 録 -奈良奉行所の与力、大和のことごとくを書き尽くさんとす- 10/29▶11/29



奈良奉行所の与力が記した 70 冊以上の記録「庁中漫録」を初めて公開しました。

せんそうたいけんぶんこ 戦争体験文庫



[左]：臨時召集令状（赤紙）



[右]：日本軍が散布したビラ（投降票）



郵便絵はがき
防空バケツリレー



戦陣訓かるた

展 示

戦争体験文庫コーナーでは常時、資料を展示。およそ 4 ヶ月に一度、展示替えをおこなっています。



展示「奉祝国民歌紀元 2600 年」

公共図書館では珍しい戦争体験コレクション

奈良県では、戦争体験を風化させることなく次世代に伝えていくため、平成 8 年度から、戦中・戦後の社会や生活の様子を記録した資料を収集してきました。当初は県福祉部福祉政策課が担当していましたが、平成 13 年度から県立奈良図書館に業務が移管され、平成 17 年に奈良県立図書情報館がオープンしてからは、3F の「戦争体験文庫」のコーナーで収集資料の多くを公開しています。

全国から集まった寄贈資料は約 6 万点

資料の収集は当初から寄贈資料を基本としてきました。戦災罹災都市の公立図書館や戦争・平和資料館、遺族会などに関連資料情報の提供を求めるとともに、新聞やホームページ、チラシで寄贈を呼びかけてきました。その結果、現在では約 6 万点の資料が集まっています。その内容は満州事変（1931 年）からサンフランシスコ講和条約（1952 年）までの時期の体験に関するもので、召集令状（赤紙）や当時の日記、教科書など多岐にわたります。

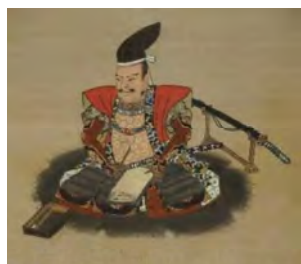
庁中漫録 あれこれ

Vol.1



「^{ちやうちゅうまんろく}庁中漫録」は、江戸時代に奈良奉行所の与力、^{たまいさだとき}玉井定時(正保3[1646]年～享保5[1720]年)とその子孫によって記された計79冊の文書群であり、当館にはそのうち78冊が寄託されています。(散逸した残り1冊は、春日大社が写本を所蔵)

玉井家の人々のうち、最も精力的に記録を残したのが、玉井定時です。彼が与力を務めた時期は、奈良奉行所のしくみが確立・定着していく時期にあたり、その業務記録は、奈良奉行所の研究には必須の史料です。また、定時は、戦国時代に荒廃した寺社の復興を江戸幕府が盛んに支援した時期に、職務としてその現場に立ち会いました。そのため、春日社の造替(元禄3[1690]年)・東大寺の大仏開眼供養(元禄5[1692]年)と大仏殿再建(宝永6[1709]年)・正倉院の開封(元禄6[1693]年)などの事業や、おん祭り・薪能など



玉井定時

の祭礼について、行政側の事務担当者ならではの詳細な記録を残しています。



そして、定時がライフワークとしたのが、大和国の地誌の編纂です。この編纂は、もとは、江戸から赴任してくる奉行が奈良の寺社について知るための便覧として、奉行所で定めた項目を寺社に報告させたものをまとめる業務から始まりました。ところが、以前から大和の地誌編纂を志していた定時は、奉行からよりくわしい記録を編纂する許可をとりつけ、大量の史料の閲覧筆写や古老などからの聞き取りを始めます。また定時は、当時、奈良の僧侶・神職・町人の間で形成されていた知識人サークルとの人脈も大いに編纂に活用しました。与力という立場と豊かな人脈や教養、職務の枠を超える熱意を合わせ持つ玉井定時の尽力は、江戸時代前半までの大和の行政・産業・信仰・風俗・芸能などの多彩な情報の詰まった地誌として実を結びました。

(小林 ひろみ)

当館では「庁中漫録」のうち、地誌の部分を中心とする22冊分を活字化しました。『奈良史料叢書』一～七、別冊目次として出版しています。



まほろばデジタルライブラリー

当館所蔵の古文書や絵図、公文書の一部をデジタル画像でご覧いただけます。



QRコードを読み取ると、検索画面が開きます。

本号に登場した小さな鹿と旅人は「いんばんや絵図」に描かれています。ぜひ、探してみてください。



<編集後記>

はじまりました「奈良語り」。
普段、公文書や古文書などの歴史資料を取り扱う職員が、直接見て触れて知った資料の魅力を“もっと伝えたい、語りたい”と公文書館だよりを発行することになりました。
準備号では、当館の公文書館としての役割をご紹介いたしましたが、1号からは、いよいよ魅力的な資料の数々をご紹介してまいります。

奈良語り -公文書館だより- <準備号>

発行日 令和5年4月4日

発行 図書・公文書課 公文書・地域研究係

発行所 奈良県立図書情報館 図書・公文書課

〒630-8135 奈良市大安寺西1丁目1000

TEL.0742-34-2111 FAX.0742-34-2777